

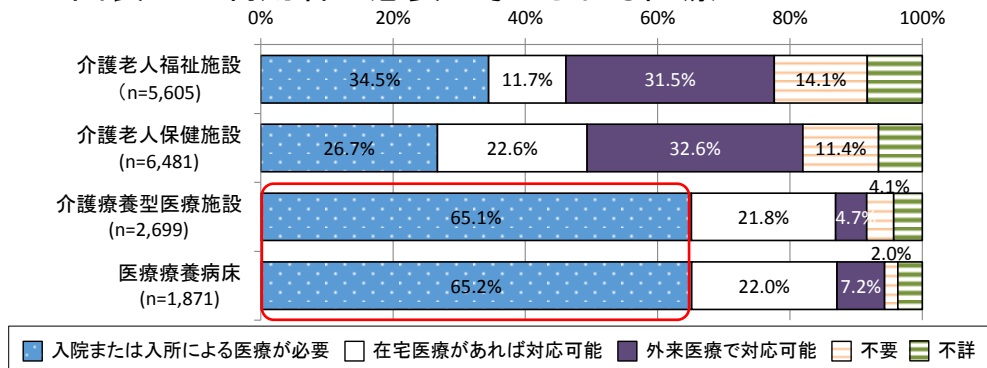
(4) 介護保険施設等における利用者等の医療ニーズへの対応の在り方に関する調査研究事業

入所者・入院患者の状況(利用者に必要な医療・介護等)【入所者票】

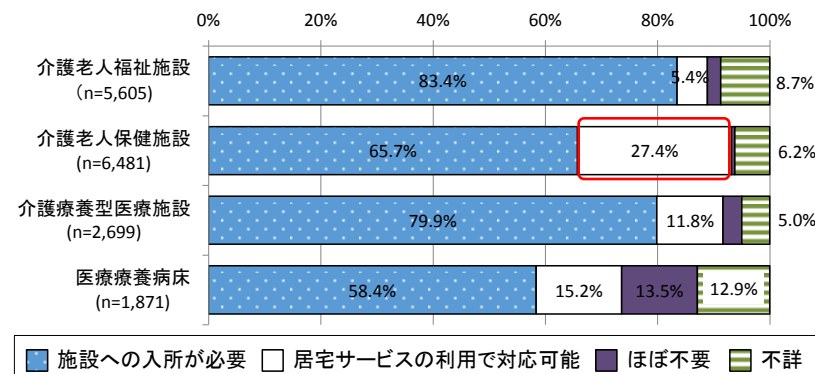
- 看護職員が判断する利用者に必要と考えられる医療は、介護療養型医療施設と医療療養病床では「入院または入所による医療が必要」な者の割合が6割を超えていた(図表22)。
- 看護職員が判断する利用者に必要と考えられる介護は、介護老人保健施設においては「居宅サービスの利用で対応可能」な者の割合が3割弱を占め、他の施設類型に比べてその割合が高かった(図表23)。
- 看護職員が判断する最も適切と考えられる生活・療養の場について、介護老人福祉施設、介護療養型医療施設、医療療養病床ともに自施設類型が適切と考えられる者の割合が最も高く、約5～8割を占めていた。介護老人保健施設においては、自施設類型以外の「介護老人福祉施設」、「自宅」が適切と考えられる者の割合がそれぞれ30.9%、23.5%を占めていた(図表24)。

調査票該当箇所: 入所者票 「特」問23「老」問24「療」「医」問22入所者に必要と考えられる医療、「特」問24「老」問25「療」「医」問23入所者に必要と考えられる介護、「特」問25「老」問26「療」「医」問24最も適切と考えられる生活・療養の場

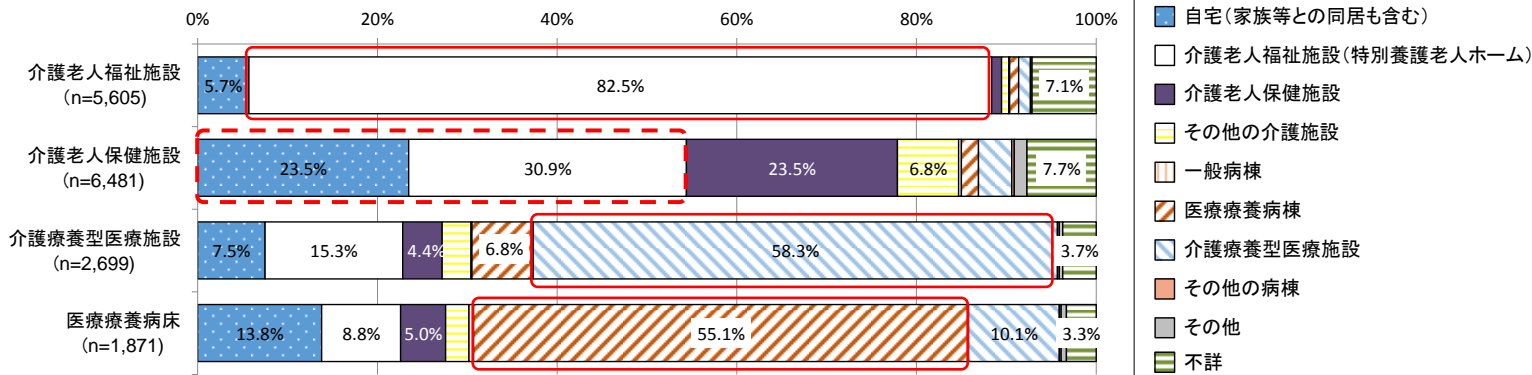
図表22 利用者に必要と考えられる医療



図表23 利用者に必要と考えられる介護



図表24 最も適切と考えられる生活・療養の場



※最も適切と考えられる療養の場について昨年度調査と比較したが、傾向に大きな差は見られなかった。